

1 国語に関する調査

【特長】

- 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える問題ができている。短歌の学習において、大意を捉えて鑑賞する指導を計画的に行った成果だと考えられる。
- 話し合いの中で、発言する際に指し示している資料の適切な部分を選ぶ問題の正答率が他の問題に比べて高い。授業の中で、グループやペアでの話し合い活動を多く行った成果であると考えられる。

【課題】

- 表現の技法について理解しているかどうかをみる問題の正答率が低い。知識及び技能の資質・能力の定着を図るために、繰り返し学習に取り組む必要がある。
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題の正答率が低い。無解答率も高いことから、文章の要約について繰り返し学習する必要がある。

2 数学に関する調査

【特長】

- 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較し、読み取る問題ができている。データの活用について、用語を正しく使って自分の考えを説明する活動の成果だと考えられる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算を行う問題の正答率が高い。

【課題】

- 簡単な場合について、確率を求める問題の正答率が低い。知識及び技能の資質・能力の定着を図るために、繰り返し学習に取り組む必要がある。また、樹形図などを用いて、状況を整理する力をつける必要があると考えられる。
- 成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低く、無解答率が高い。より簡単な場合に成り立つ事柄から統合的・発展的に考える場面の設定や、数学的な表現を用いた言語活動などを行う必要があると考えられる。

3 生徒質問紙の結果より

【特長】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒が多い。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒が多い。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が増えた。地域の活動等に参加する機会を積極的に提供した成果と考えられる。

【課題】

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は増えているが、相談できずにいる生徒も、一定数いる。生徒自身の自己肯定感を高められるよう、教育相談体制の一層の充実を図りたい。
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴を行っている生徒が多い。規則正しい生活習慣を身に付ける姿勢を育みたい。

授業・学校生活の充実に向けた取組

- 学校教育活動の中で、生徒一人一人の頑張り、良い面を積極的に認め、評価し、生徒に伝えることで、生徒自身が自分の「強み」を自覚できるようにする。
- 生徒が自分を肯定的に捉えられるように、教職員と生徒の信頼関係を一層深められるよう努める。
- 生徒が社会性を身に付けるため、地域の活動等に参加する機会を積極的に提供したり、学校において地域の人たちと共に取り組める場を設定したりすることで、多くの人と触れ合い、様々な経験をする中で、思いやりの心や達成感、自己有用感を持てるよう努める。
- 「ICT機器を活用することで学習内容がよくわかる」と考えている生徒が多いことから、様々な学習活動の中での効果的なICT機器の活用を推進する。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと・地域の方に知っておいていただきたいこと

- 生徒が学習内容を理解し、定着させるには、家庭においても毎日授業の復習に取り組む等、家庭学習の習慣化が大切です。ご家庭でもお声掛けをお願いします。
- 「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した生徒が多いことから、引き続き生徒の自己肯定感や主体性が育まれるよう、是非、ご家庭で子どもたちを温かく見守り、認め、褒めていただければと思います。
- 子どもたちが、地域社会の一員として活動に取り組む中で、未来のかけがえのない地域人材の一員となるよう、取り組みを支え、励ましていただきますようお願いいたします。